

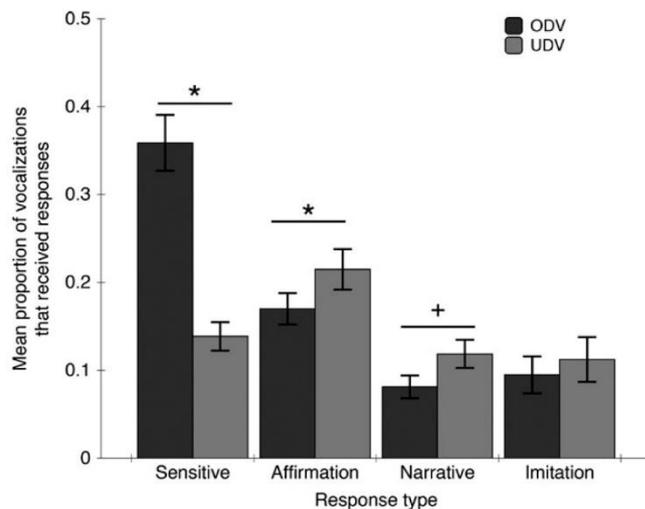
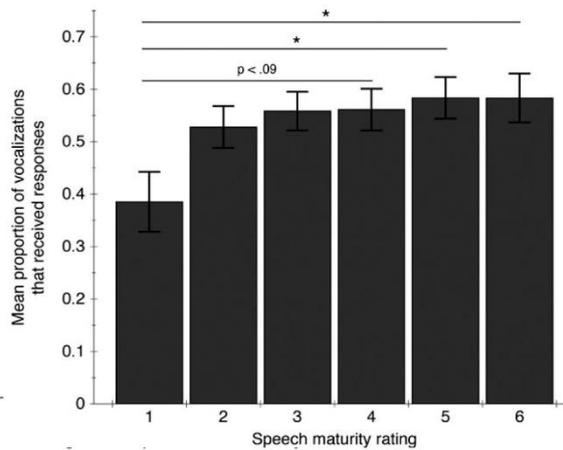
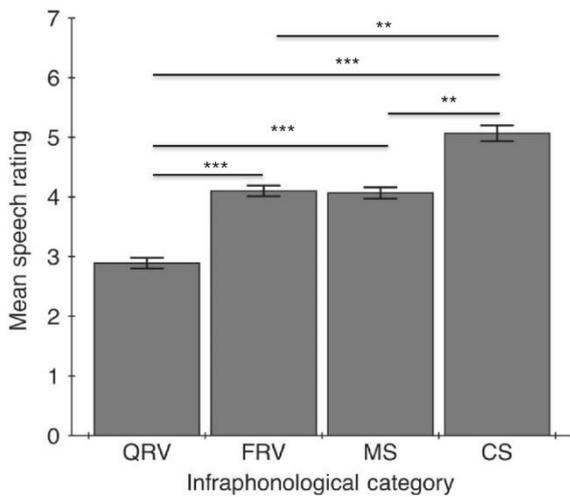
期待 78-喃語と ASD:

Albert, R.R. et al. (2018) Dev. Sci., 21: e12641.

この論文は 9 カ月齢の定型発達児の playback 音声（ビデオ）に対する養育者の反応を検討した。Playback だけでなく実際の場面での結果と比較している。両者に大きな差はなかったため、比較の部分は省略する。下の表 1 が養育者の反応のタイプ、説明、例である。

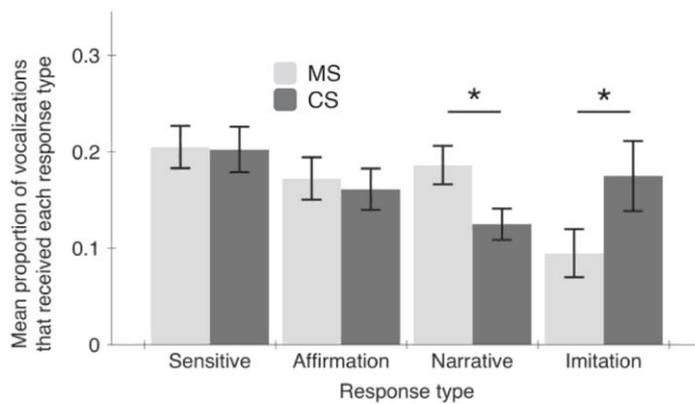
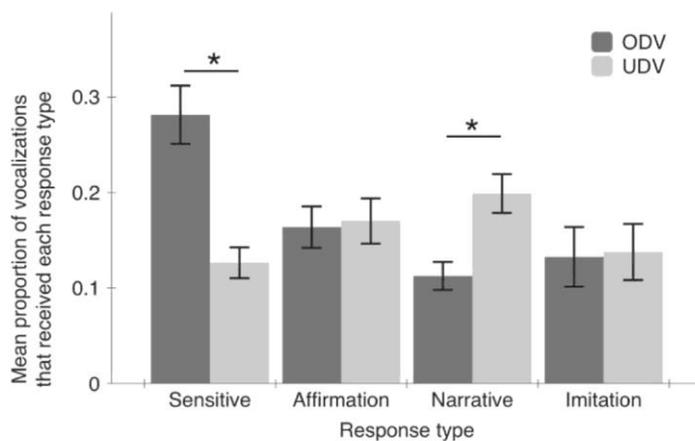
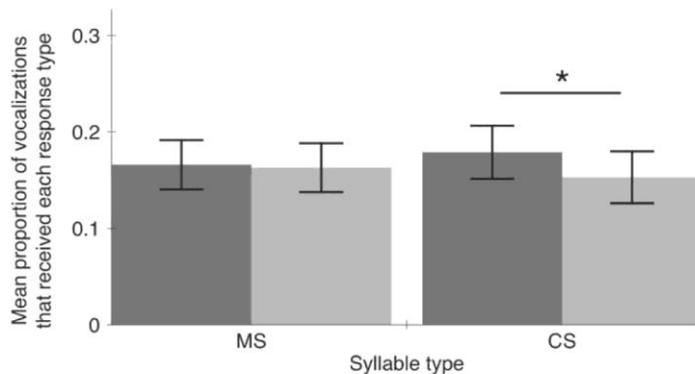
TABLE 1 Verbal response categories

Response Type	Definition	Example
Sensitive	Statements or actions directly related to the object the baby is focused on	<i>That's a ball</i>
Affirmation	Conversational turns that do not provide new information	<i>Uh-huh, I know</i>
Narrative	Statements related to baby's state or actions	<i>You're so big!</i>
Imitation	Duplications of baby's sound	Baby: [ba]; Mom: [ba]
Redirection	Attempts to move infant attention elsewhere	<i>Look at this toy instead</i>
Non-sequitur	Statements unrelated to the infant or current context of the infant's environment	<i>What should we have for dinner?</i>



上図左は幼児の音声の評定で、QVR は声道の共鳴が不十分な音声、FRV はそれが十分な音声、MS は不完全な喃語に当たる音声、CS は標準的な喃語に当たる音声で、この順序で出現し、評定値も高くなる。上図右にあるように、評定値が高いと養育者から反応を受けやすい傾向がある。下図は幼児の音声にものに向けられた時 ODV とそうでない時 UDV に受けた 4 つの反応のタイプの率で

る。ODV, UDV で反応タイプの出現率に差がある。ODV では当然 sensitive の反応が多い。



左の図は MS, CS の子音と母音の音節についての結果である。上図は MS と CS の比較で、CS がものに向けられた時は養育者の反応を受けやすい。中図は音節がものに向けられた時とそうでない時の4つの反応タイプの比率である。Sensitive の反応は ODV で多く、narrative の反応は UDV で多い。下図は MS, CS と4つの反応タイプとの関係である。Sensitive の反応は MS でも CS でも同じ率だが、narrative は MS で、imitation は CS で比率が有意に高い。

声道の共鳴や子音-母音の変移部短縮など、幼児の言語的な音声は養育者の反応を引き起こすことが分かる。また、sensitive や imitation の反応は幼児の音声学習を促進する。幼児は養育者との interaction で言語や社会的な communication の能力を獲得していく。

この論文の著者に Goldstein, M.H.がいる。かれはこのような主張を繰り返しているのだから、参考になるだろう。

Goldstein et al. (2003) PNAS, 100:8030-8035.

Goldstein & Schwade (2008) Psychol. Sci., 19:515-523.

Goldstein & Bornstein (2009) Child Dev., 80:636-644.

以上は、斜め読みの結果である。さて、問題は ASD である。これまた、勝手に感想を述べる。ASD では社会性に問題がある。そして、喃語の出現は低かったり、遅れたりする。これは養育者の反応や interaction を減らす悪い循環に落ち込むだろう。ASD にとって重要

なのは、弱いであろう社会性の強化であるように思われる。言語の基礎である喃語の出現前から ASD の社会性の強化を訓練する必要があるだろう。社会性の訓練は普遍的な重要性を持つが、特に、ASD のハイリスクの幼児にそれは必要だ。そのためには養育者と幼児が長い時間接する家庭で訓練できることが望ましい。大学などの研究機関の役割の一つは、養育者の訓練だろう。喃語が出現し始めるのは7カ月齢頃である。ASD ハイリスク児では、その前から（誕生直後から）社会性を高める訓練を行なうことが望ましいとおもうが、どうだろうか。養育者と幼児との interaction を密にし、幼児の行なう行動の社会性を高める訓練である。